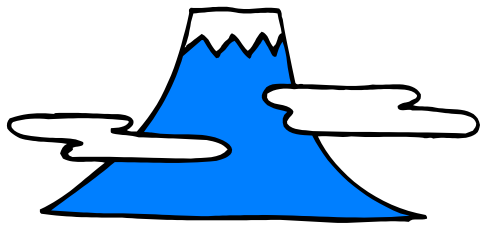
ほっぷ すてっぷ じゃんぷ

特訓進学塾 名教



2013年度版　第2号

2013 年 5 月 27 日（月）
名古屋教育文化センター

塾長コラム

あんぱんち

～第三十五回～

5月も半ばを過ぎ、小学生たちは運動会に、中学生たちは中間テストに忙しいようです。みんなそれぞれの役割で活躍できるよう力いっぱいがんばってほしいものです。

さて、そんな5月は、名教でも、中学生と中学受験生のテスト対策を行っています。今年度、授業システムをリニューアルしたこともあって、テスト対策の進め方も新しくしようと取り組みました。名教のテスト対策は、「毎日通塾」が基本です。これは、私がこの塾で担当した第1期生たちの声から始まったことです。それ以来、ずっと続けていることです。毎日、塾に来るなんて大変だと思われる方もいらっしゃいますが、毎日、勉強するのは本来の姿です。それを塾で、私たちや友だちと一緒にやろうというのだから、子どもたちも頑張れるようです。受験を控えた学年になってくると、子どもたちのほうから、「もう少し残ってやってもいい？」「明日、塾に早く来てもいい？」などという声すら出てきます。そんな頑張ろうとする子どもたちを、できる限り応援したいと思って、私たちはテスト対策に取り組んでいます。

ところで、リニューアルしたテスト対策の時間割の関係で、久しぶりに中学生の国語を担当しています。（実は、私、塾講師になった当初は、国語と英語の担当だったのです。）教科書を読むと、昨年度、教科書改訂が行われたこともあって、新しい文章もたくさん掲載されていました。中学3年生では、「春に」（谷川俊太郎）、「新しい博物学の時代」（池内了）、「みどり色の記憶」（あさのあつこ）、中学2年生では、「虹の足」（吉野弘）、「タオル」（重松清）、「学ぶ力」（内田樹）などを読みました。機会があれば、一度読んでみてください。結構小難しい文章という印象を受けると思います。

さて、内容面について、私の感想です。1学期のはじめに読ませる文章のせいでしょうか、勉強の仕方を訴えたり、将来の進路を考えさせたり、親との関わりを説いたりする内容が目立ちます。思春期真っ只中の中学生にとっては、場合によっては説教にしか聞こえない内容でしょう。私自身が中学生だったらと考えても、なかなか受け入れがたい内容のような気もします。しかし、親となった今の自分には理解できます。子どもたちに言いたいことがいっぱい書かれています。逆に、中学生の自分が、このようなことを理解していたら、また違った人生を歩み、また違った親との関係を築いていたのかもしれないなとさえ思います。今の中学生たちも、話の本旨が、いつかきっと理解できる日がくるだろうと願っています。

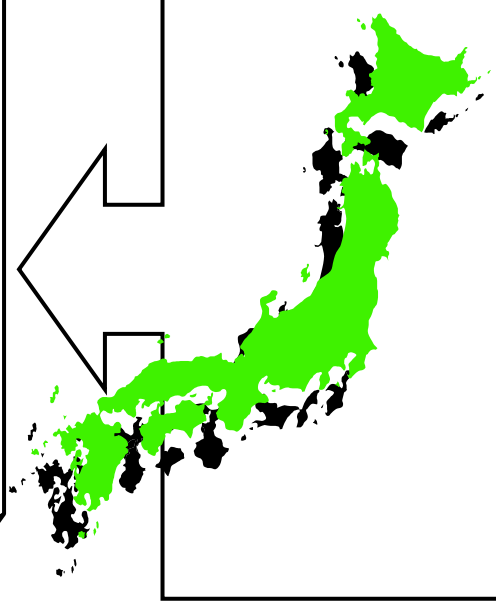
そういえば、このページの下段に掲載しているような内容も同じかもしれません。私たちも、「子どもたち、読んでいるのかな？　分かってくれるのかな？」と話しながら、「必要なことでしょ。」と考えて載せ続けています。私は、テスト対策プリントのおまけで、読んでほしい新聞記事をいっしょに配ります。今回は、野球の記事ですが、「横浜・中村紀洋選手２０００本安打達成」の記事で、ご本人の「部活があって、今日しか娘が来られないと聞いていたので、なんとか達成したいという思いで最初は力んでいましたね」というコメントを紹介しました。私のコメントとして「親の思い。そろそろ分かるかな？」と付けておいたら、ある中3生たちが、「私には、まだ無理だな。」「俺も、わからんわ。」「先生は昔どうだったの？」「分かるときが来るのかなぁ」と話していました。こうやって、子どもたちは、徐々に、いろんなことを理解し、大人になっていくんだな、と思います。思春期って、難しい時期ですが、大切な時期です。頑張れ、中学生！

塾長　西川　陽祐

今月の学問のすすめ

《もとの文》

一人にてこの日本国を維持する
の気力を養ひ、もって世のため
に尽くさざるべからず



《今のことばでいうと》

自分一人で日本という国をせ
おってたつくらいの気持ちをも
って、世の中のためにはたらい
てみなくちゃいけません。

おおきい夢があれば、すこしくらい
失敗してもくじけないんだよ

＊　＊　＊

目標はたかくもつことがたいせつなんだ。なぜかというと、目標をたかいところにおくと、テストでいい点をとったり、志望する学校に入ったくらいで満足しないで、もっともっとがんばれるからなんです。

希望する学校に入ったとたん、目標がなくなって、勉強しなくなっちゃう人を、ぼくは何人もみています。たかい目標をもたないと、人間は努力しなくなっちゃうんですね。

だから思いきりたかい目標をもつ。自分一人で日本国をせおうくらいの気持ちで、夢を大きくもつのがいい、と諭吉先生も言っています。

それくらいの野心があれば、ちょっとくらい失敗したり、勉強につまずいても、くじけずに進んでいけます。

勉強していると、壁にぶつかることが必ずあります。でも諭吉先生は、三年、五年とがんばって勉強すると、それが身についた学問になり、社会に役だつ仕事ができるといっています。

『こども「学問のすすめ」』（齋藤孝著、筑摩書房、2011年11月30日発行）

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

子どものためのルールブック

ルール 45

前向きに生きよう。そして、人生を楽しもう。なかには、腹を立てるだけの値打ちがないことだってある。視野を広くして、人生のすばらしい面に目を向けよう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

（ロン・クラーク著　亀井よし子訳　草思社）より